「この人 32」　　**伊藤 浩睦** 54歳 愛知県

編集部　俳句を始められたきっかけは？

伊　藤　俳句は、三十歳頃から始めましたが、詰まらない、当たり前の事しか言わないことに不満を持っていました。朝日新聞で、滑稽俳句協会のことを知って入会したのがきっかけですが、それ以前から、「犬筑波集」や「守武千句」、松永貞徳などを読んでいて、古典俳諧の滑稽にも興味をもっていました。

編集部　滑稽俳句の魅力は、何でしょうか。

伊　藤　花鳥諷詠などと言って、見た事しか句にさせない俳句に比べて、知識や物の見方を多様に表現できます。物事を当たり前に見ず、皮肉に、逆説で考える知性の遊びとしての魅力、優等生やお上品にならない、意地悪もある庶民感情が出ていることです。滑稽俳句によって、句作の幅も広がりました。

編集部　いい滑稽俳句をつくるコツをお教えください。

伊　藤　近代以前の俳人は、皮肉、悪口、語呂合せ、
駄洒落、穿ち、見立て、擬人化、下ネタ、知られた文句の嵌め込み、本歌取をやっていました。雑学的知識、古典俳諧に対する知識、歴史や社会に関する知識を多様に持ち、いつでも引き出せるようにしておく事と、社会を素直に見ない事です。

編集部　興味深いお話、ありがとうございました。

＜代表句＞

弩挿すやパチンコ台の釘に似て
梅雨兆す雨意の奥山今日越えて
鷹ひとつ見つけて悔しダム工事
炮烙の刑もかくやと西日なか
首長き浴衣の君の丑の刻

掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。